

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-121949

(P2017-121949A)

(43) 公開日 平成29年7月13日(2017.7.13)

(51) Int.Cl.
B 6 5 D 25/38 (2006.01)F 1
B 6 5 D 25/38テーマコード (参考)
3 E 0 6 2

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2016-1088 (P2016-1088)
(22) 出願日 平成28年1月6日(2016.1.6)(71) 出願人 516007928
澤野 晴美
神奈川県平塚市出縄 5 0 3 - 1
(74) 代理人 716000097
澤野 信行
(72) 発明者 澤野 晴美
神奈川県平塚市出縄 5 0 3 - 1
Fターム(参考) 3E062 AA09 AB01 BB02 BB09 KA10
KB02 KC03

(54) 【発明の名称】 脈動防止具

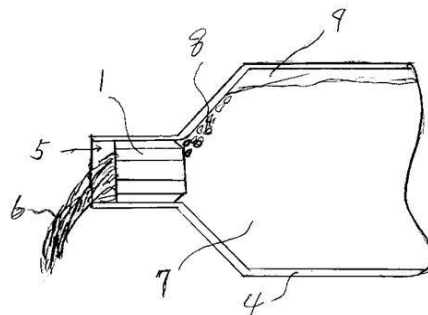
(57) 【要約】

【課題】 ボトルから液体を注ぐ際に液体は脈打ち、注ぎ口から容器に移す時に飛び跳ねがおきる。この飛散を防ぐ有効な技術は開発されていない。

【解決手段】 ボトルの注ぎ口に空気取り入れ用のパイプを、内側にリング状に取り付け、注ぎ口のどの位置からでも空気を取り入れられ、液体の注ぎが自由な位置からでもできるようにした。注ぎ口に設ける脈動防止具は、ボトルに挿入しやすくするために、その先端をカットし、又、ズレを防ぐためにパイプや、板材の弾性（弾力）を利用する。この脈動防止具を付けることにより、液体を注ぐ際に生じる、不規則な流れを整えることができる。

。

【選択図】 図 5



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ボトルの注ぎ口より外気を取り入れて、ボトル内の空気圧を外気の圧力と同じようにして、液体の流れを安定させる脈動防止具。

【請求項 2】

パイプ，又は羽根状の板からなるスプリングを有するにする請求項1に記載の脈動防止具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本発明はボトル等より、内部の液体を注ぐ時におこる脈動を防止する器具に関する。

【背景技術】

【0002】

ボトルの注ぎ口より流れ出る液体が、不規則にドボ、ドボと脈打つて流れでるため、容器に注ぎ込むとき飛散している。これを防止する技術として、特開2010-83530号公報や特開2013-47116号公報に開示された技術がある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

20

特許文献1 特開 2010-83530号公報

特許文献2 特開 2013-47116号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ボトルから液体を注ぐ際に、液体は脈打つような強弱を繰り返しながら、注ぎ口から容器に移すときに、飛び跳ねや飛散する欠点を解決することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

30

本発明は、ボトルの注ぎ口に空気取り入れ用のパイプ（など）を、内側にリング状に取り付け、注ぎ口のどの位置からでも空気を取り入れられ、液体の注ぎが自由な位置でもできるようにした脈動防止具であり、

第1の発明は、ボトルの注ぎ口より外気を取り入れて、ボトル内の空気圧を外気の圧力と同じようにして、液体の流れを安定させる脈動防止具である。

第2の発明は、第1の発明において、パイプ，又は羽根状の板からなるスプリングを有するにする脈動防止具である。

この脈動防止具をボトルの注ぎ口に脈動防止具を付ける事により、液体を注ぐ際に生じる不規則な流水を整え、流れを安定させる。

【0006】

40

脈動防止具は、ボトルの注ぎ口に付けることにより、空気をボトル内に取り入れるパイプや溝などを、数本取り付けて注ぎ口の上部のパイプなどより空気を取り入れる。

【発明の効果】

【0007】

上記のようにボトルの注ぎ口に、空気取り入れ口を設けた脈動防止具を付けることにより、ボトル内の圧力が外気圧に近くなることにより、液体をスムーズに注ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】 本発明の脈動防止具を示す図である。（Aは横から見た図、Bは縦から見た図

50

、Cは部品である。

【図2】本発明の他の脈動防止具を示す図である。（Aは横から見た図、Bは縦から見た図、Cは部品である。

【図3】本発明の脈動防止具をボトルの口に装着した図である。

【図4】本発明の他の脈動防止具をボトルの口に装着した図である。

【図5】本発明の脈動防止具をボトルの口に装着し、使用している状態を示した図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

本発明は、ボトルの注ぎ口に空気取り入れ用のパイプなどを、内側にリング状に取り付け、注ぎ口のどの位置からでも空気を取り入れられ、液体の注ぎが自由な位置でもできるようにした脈動防止具である。

【実施例】

【0010】

本発明の実施例を図1～図5に基づいて説明する。

図1は、本発明の脈動防止具1を示す図である。Aは横から見た図、Bは縦から見た図であり、ボトルの口側より見ている。Cは部品2であり、この部品を8個(本)入れている。本数はこれに限る必要はない。通常は6本～10本程度が実用的である。4はボトルである。

【0011】

図2は、中心部のパイプに8枚の羽根3をつけた場合を示している。この羽根の枚数は、場合に応じて変化させることができるが、通常は4枚～12枚が実用的である。4はボトルである。

【0012】

図3は、本発明の脈動防止具1をボトル4の口に装着した図である。

図4は、本発明の他の脈動防止具1をボトル4の口に装着した図である。

図5は、本発明の脈動防止具1をボトル4の口に装着し、使用している状態を示した図である。空気は空気の流れ5となって外部よりボトル4の内部に泡8となって入り、ボトル4の上部にボトル内の空気9となる。6は注出した液体、7はボトル4内の液体である。

【0013】

ボトルの注ぎ口に空気取り入れ用のパイプを、内側にリング状に取り付け、注ぎ口のどの位置からでも空気を取り入れられ、液体の注ぎが自由な位置からでもできるようにした。注ぎ口に設ける脈動防止具は、ボトルに挿入しやすくするために、その先端をカットし、又、ズレを防ぐためにパイプや、板材の弾性（弾力）を利用する。この脈動防止具を付けることにより、液体を注ぐ際に生じる、不規則な流れを整えることができる。

【符号の説明】

【0014】

- 1 脈動防止具
- 2 部品（パイプ）
- 3 羽根（仕切り版）
- 4 ボトル
- 5 空気の流れ
- 6 注出した液体
- 7 ボトル内の液体
- 8 泡（取り入れた空気）
- 9 ボトル内の空気

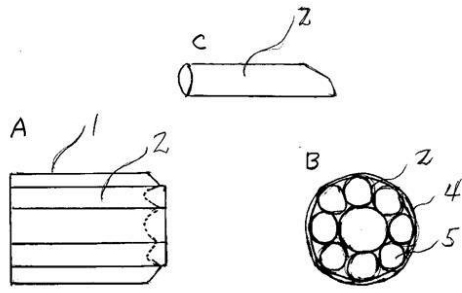
10

20

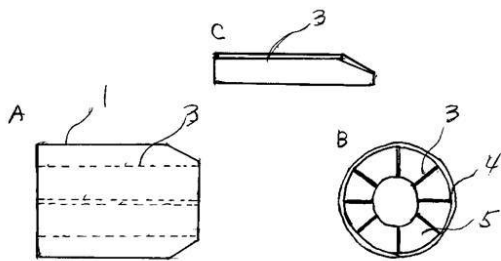
30

40

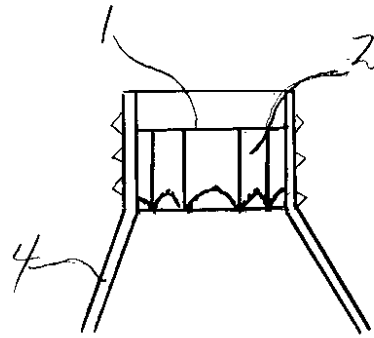
【図 1】



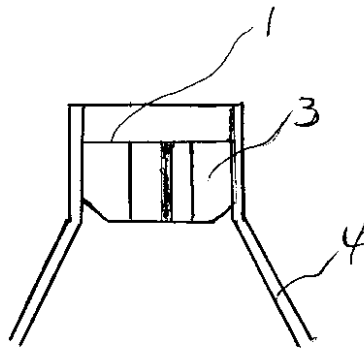
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

